

特定非営利活動法人ADDS

アニュアルレポート2018

—10周年特別版—

ADDS

Advanced Developmental
Disorders Support



ADDSのミッション

すべての自閉症があるお子さんとその保護者の方が、
早期の適切な支援によって、
可能性を最大限に広げられる社会の実現を目指します



「日本に帰って一番辛いことは、我が子への療育環境がアメリカでいた頃のように整わないことかな、と思っていました。でも、帰ってきたら違いました。私がアメリカで体験して学んだようなことを、子どもが幼稚園に入るような年齢まで知らない人が数多くいて、多くのお子さんの可能性が失われていることが、一番辛かったです。今も、そのことが一番辛いです。」

これは、共同代表である竹内が学生の時、自閉症の支援を始めるきっかけとなった保護者の方からのお手紙です。

日本では欧米に比べて、効果が実証されている療育を受けられる環境が不足しています。

「支援者が圧倒的に少ない現状を変えたい」

「すべての子どもに効果的な療育を届けたい」

その思いを胸に、私たちは挑戦し続けます。

ADDSの理念

保護者とともに 取り組むこと

わたしたちは、保護者は子どもの一番の専門家になれると信じています。子どもが学ぶ過程をしっかりと共有し、その親子らしい学びのスタイルをともに築くことを大切にしています。

研究成果に基づいた 手法を選択すること

わたしたちは、応用行動分析学(ABA)に基づいた支援を行います。ABAは、具体的な目標を立て、達成度を見極め、支援方法を進化させていくPDCAのサイクルを繰り返します。子どもの豊かな学びに徹底的に向き合う方法論です。

社会に変化を 起こすこと

子どもたちは、かかわる人や環境から様々なことを学びます。わたしたちは、すべての人が、子どもたちの良き理解者、支援者となる社会の仕組みづくりに取り組んでいます。



10 年のあゆみ

2003

出会い

学生時代の、「お話が苦手な幼児に遊びの中で言葉を教えるアルバイト」が自閉症の支援をはじめのきっかけに

2006

学生の立場でできること

学生団体「慶應発達障害支援会(KDDS)」設立
大学院にて研究・臨床活動

荻窪指導ルームOPEN

- ◆ 2事業所目「Kids 1st 荻窪」開所
- ◆ 「発達の気になる子と家族の勉強会」

2014

2013

新宿指導ルームOPEN

- ◆ 新宿指導ルーム開所
- ◆ 「児童発達支援事業」スタート
- ◆ はじめて職員が入社



2011

恵比寿時代/NPO法人化

- ◆ 恵比寿指導ルーム
- ◆ 「早期療育スタートアッププログラム」
提供数増加
- ◆ 他事業者へのセラピスト養成研修
提供開始

2010

間借り生活

- ◆ 徹夜のプログラム作成...
- ◆ 中目黒指導ルーム(日)
- ◆ 横浜指導ルーム(月)
- ◆ 六郷土手指導ルーム(日)



2009

保護者主体の療育を 社会へ

- ◆ 任意団体「ADDS」の設立
- ◆ 「早期療育スタートアッププロジェクト2009」
- ◆ 学生セラピスト部第1期生スタート
- ◆ NEC社会起業塾8期生に選出

有効な支援を全国へ

鎌倉指導ルームOPEN

- ◆ 「ぺあすく」各地への実装スタート！
- ◆ 課題構成システム「AI-PAC」開発完了
- ◆ ミサワホーム・セントスタッフ放課後等デイサービス「ミライエ」技術提携
- ◆ 三菱財団社会福祉事業・研究助成採択
- ◆ 自閉症啓発デー参加開始

- ◆ 3事業所目「Kids 1st 鎌倉」開所
- ◆ AI-PAC実装公募説明会
- ◆ 実装機関が10機関へ

新たな挑戦

- ◆ 情報発信サイト
～ Hütte ～ イベント開催
- ◆ Hütteカフェ(先輩ママ座談会)
- ◆ 謎解き×自閉症体験プログラム
「88ぶんのI」
- ◆ 「ぺあすく」開始
- ◆ 保護者向け
E-learningプログラム開発

2015

2016

2017

2018

2019

研究と支援のひろがり

- ◆ 「早期療育スタートアッププログラムVer.2」開始
- ◆ 「ぺあすく」のレギュラー化
- ◆ NHKあさイチ発達障害特集
- ◆ JST/RISTEX「研究開発成果実装支援プログラム」に採択

NEW

江戸川区発達相談・支援センターの指定管理事業者に選定
2020年4月開所予定！

2019年度戦略的創造研究推進事業「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」に採択

「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」

エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデルの実装PJ
全国に広がる連携機関



私たちは

子どもの可能性を最大限に広げられる社会を

目指しつづけます

私たちが自閉症の早期療育に出会った頃、日本では「療育」という言葉もあまり知られていない状況でした。「学生の立場でもできることがあるよね」と学生団体KDDS(慶応発達障害支援会)を立ち上げたのは、学部4年の春でした。高田馬場駅の改札を出た所、帰り際の立ち話が何十分も延長されてその構想を2人で話し合ったのを今でも覚えています。KDDSの活動を通して、修士2年の春に三日三晩2人で泊り込んで療育課題をエクセルにまとめ上げたのが、現在のAI-PACプログラムの原型となるグランドプログラムです。大学院修士課程を修了したとき、うっかり博士課程の願書を出し忘れ途方にくれたとき、いつかやるなら「今」なのでは？とゼミの後輩を巻き込んでADDISを立ち上げました。その頃は、とにかく子どもたちの成長とご家族のひたむきな努力と、そこから生まれる親子の信頼と絆に心打たれ、「こんな親子の成長と絆を全国に広げたい」と無我夢中でプログラムを作り提供していたのです。

それから10年が経った今、発達障害への理解は徐々に広まりつつあります。法人は規模が大きくなり、社会制度は変化し障害児の通所施設が全国に急増しました。療育機関を調べてわざわざ遠くまで通わずとも、地域にある通所施設に通える親子が増えました。そして今、私たちが見据えているのは、やっぱり

10年前と少しも変わらない目標です。

敬愛する事業家の石川治江さんに、「10年は仕込みですよ」と言われたことがあります。仕込みの10年で、質にこだわったプログラムを作り、効果検証をし、広げるためにシステムを開発し、人材研修の仕組みをつくり、全国の心ある事業者様とつながることができました。その一つ一つのステップで、いつも私たちを温かく見守りご指導くださった先輩事業家やメンターの方々、大学の先生方、関わってくださった現場の先生方、そしてお子様の幼少期という宝物のような時間を、私たちを信じてともに過ごしてくださった保護者の皆様、素晴らしい成長で絶えず私たちに学びと喜びをくれた子どもたちに、心より感謝申し上げます。

次の10年は、地域の質の高い実践を一つ一つ掘り上げ「臨床の知」として体系化することと、行政への働きかけを通して制度から変えていくことに、またひたむきに取り組んでまいります。

日本中のどこで発達支援ニーズのある子どもが生まれても、親子が困らず質の高い支援に辿り着ける社会、子どもの可能性を最大限に広げられる社会を、10年前もこれからも心から願い、挑戦し続けます。

引き続き、みなさまの温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

共同代表

熊仁美

竹内弓乃



保護者研修・ 家庭療育 サポート事業

ご家庭で療育に取り組むお手伝いをします。

- 早期療育スタートアッププログラムVer.2
- 親子で学ぶ療育プログラム「ぺあすく」
※児童発達支援通所受給者証適用
- e-learning形式の療育講座「ネットdeぺあすく」
- 初級ABAセラピスト紹介サービス

「保護者は子どもにとって一番の理解者であり
支援者である」という信念と、
保護者の皆様への深い信頼と尊敬から
生まれた小さなプロジェクトが、
10年をかけて全国に広がりました。



2009年任意団体ADDSの立ち上げとともに始まった「早期療育スタートアッププロジェクト2009」は、「早期療育スタートアッププログラム」として、中目黒、横浜、六郷土手、恵比寿と様々な場所で開講し、参加家庭数が増えていきました。2013年からは新宿に本部を移し、障害児通所支援事業の枠組みを適用することで、保護者の経済的負担の軽減と、質の高い療育支援の両立が可能となりました。さらに、セラピストの高い専門性と経験値に依存したプログラムから、体系化された研修と課題データベースの活用によって、より多くの支援者が実施可能な広がりのあるプログラム「ぺあすく」へと進化を遂げました。

ADDSの保護者研修プログラムは、現在までに500家庭以上が参加しています。また、2016年に始まったJST/RISTEXの実装プロジェクトにより、全国の連携機関において年間100家庭への提供が可能となりました。

これからも、現場での質の高い支援の実践と、それを全国のご家族へ届けるための仕組み化を追求します。



支援者 育成事業

アカデミックなバックグラウンドと豊富な臨床経験を活かし、様々な方を対象に研修をおこなっています。

- 初級ABAセラピスト養成研修
一般コース/学生セラピストコース
- 療育機関向けスタッフ研修、コンサルテーション
- 教職員向け研修、コンサルテーション等

ADDS学生部を卒業した学生セラピストたちは
社会へ出て未来の支援者に。

初級ABAセラピスト養成研修はこれまでに
80名以上が受講。

創業当時から「支援者の学びの場」という機能を大切に、
ネットワークは全国へ。



初めは自分たちも「学生セラピスト」だった経験から、保護者と良いチームになることができれば、学生にもできることがたくさんあると実感していました。ADDS学生セラピスト部はこれまでに90名以上の卒業生を輩出してきました。

早期支援の重要性と子供の可能性を肌で感じ学んだ卒業生たちが、教育・福祉分野をはじめ社会の様々な領域で活躍しています。

初級ABAセラピスト養成研修は、すでに現場のある外部の支援者の方を対象に、これまでに80名に受講いただきました。修了後1年間のフォローアップを経た認定制度をつくり、積極的な学びのコミュニティとなっています。



東京、神奈川、埼玉、千葉、兵庫、香川、熊本など全国各地の療育機関へ人材研修と療育プログラムを提供し、たくさんの心ある事業者様と出会いました。エビデンスベースで繋がる支援機関のネットワークづくりも進行中です。

研究開発・ 普及啓発事業

療育プログラムやその成果に関する研究成果を発表するとともに、広く社会に向けて普及啓発を行っています。

- プログラムの成果測定、データの分析
- シンポジウム等を通じた研究成果発表
- 自閉症体験ワークショップ
- 自閉症体験ワークショップインストラクター養成
- 自閉症啓発イベントへの参加
- 家庭療育についての情報発信イベントの開催

子どもの変化を可視化し、支援の質の維持向上と社会への発信を。
支援現場と研究領域の橋渡しに。

講演活動や自閉症の感覚特異性の体験研修も。

早期療育との出会いは、支援リソースの少ない日本で米国の最新の知見を取り入れて家庭療育に取り組む沢山の親子でした。一方で、専門性を高めるためにと進んだ心理学の研究室で指導教授や多くの仲間と出会いADDISが生まれました。「家庭」という最も当事者に近い場所で早期療育の極意と保護者の熱意、子どもの成長を肌で感じ、研究室では世界水準の研究に触れ、エビデンスベースの重要性を知ることができたという、特殊な経歴をもつのがADDISです。

現場で蓄積してきたデータを研究の形でまとめることで、自組織の支援の質の維持向上に役立てるだけでなく、広く社会へ発信することや支援の再現性を高めることにつながりました。

その一つの成果がJST/RISTEXの研究プロジェクト採択でもあります。

また、講演や自閉症の感覚特異性の体験研修を通して、平成30年度にはのべ400名以上の方へ、自閉症への理解や適切な関わり方、早期支援の重要性について伝えることができました。



コラム***理事が早朝にSNSで対談してみた件

原 由子
おはよう 午前 6:00

加藤 愛理
ねむい、、、
おはようございます 午前 6:01

竹内 弓乃
原ちゃんの言うてた「夜のうちに充電」怠った結果16% 午前 6:03

原 由子
あっほらあ 午前 6:03

竹内 弓乃
はい、今日の趣旨を説明すると、4人顔を合わせて対談はこのバタバタの時期無理ゲーだったので、早朝の子どもがまだ寝てる隙にSNSで対談してるべくそのままアニュレポに掲載します

誰得w 午前 6:06

加藤 愛理
ちょっと途中で授乳になった場合、、急に黙っちゃいます 午前 6:08

竹内 弓乃
しかし、熊が寝てますね 午前 6:09

原 由子
くまさんどうしたのかなあ 午前 6:12

竹内 弓乃
「私早朝じゃないと無理！」言うてた人がちょっとクマ————

電話に出んわ 午前 6:16

加藤 愛理
出ないんかーい 午前 6:17

原 由子
まさかの対談失敗かな笑 午前 6:20

竹内 弓乃
いやもう臨場感出すためにこのままやる起きてくるとこ押さえたらラッキーぐらいの 午前 6:21

原 由子
じゃあ早くすすめよ。子供が腕で寝てて暑くて重くてプルプルしてるから。 午前 6:21

竹内 弓乃
6:22にやっと入れる1つ目のテーマ…10年を振り返って、一番の思い出は？ 午前 6:22

加藤 愛理
うーん、難しい、、1番！ 午前 6:23

原 由子
やっぱり最初の頃のガッシュ苦だけど 午前 6:25

竹内 弓乃
あー 中目黒の間借りしてた部屋で全員ケース後ぶっ倒れる毎週末 午前 6:25

原 由子
新橋のゆのさんの家で作業しながら全員朝になったら気づいたらパソコンの前で寝てたとか 午前 6:26

竹内 弓乃
え、原ちゃんはベッドに移動してたような 午前 6:27

原 由子
いや、わたし寝るのはいつも最初だったけど新橋はゆのさんのベッドであんまり寝てないような。 午前 6:28

加藤 愛理
中目黒での初早スタと、二手に分かれてやっていた六郷土手、中目黒時代も思い出ですね 午前 6:29

竹内 弓乃
感謝してもしきれないね。毎週日曜、5000円/日で中目のマンション一部屋貸してくれた南さん、六郷土手のマンション貸してくれた親御さん。いい人だった。 午前 6:31

原 由子
うん。 午前 6:32

加藤 愛理
そこに通ってくれた1期生の保護者さんにも相当感謝ですよな 午前 6:33

竹内 弓乃
怪しすぎるだろ！ 午前 6:33

原 由子
ほんとそう。 午前 6:33

原 由子
でも次の思い出は私は新宿かな。
児童発達になって、たかおさんと
か職員を初めて雇ってドキドキした
午前 6:37

竹内 弓乃
初めてのボーナスをやってみたくて
封筒で手渡したりしたね
午前 6:38

原 由子
私は初めて4人以外の仲間増えた
感が嬉しくもあり不安でもあり。
午前 6:39

竹内 弓乃
うん、次のステージに来たって感
じてワクワクしてた
そのタカオが今や横綱社員に...
午前 6:40

加藤 愛理
そうか、初めボーナスなかったです
ね！よくぞ今まで勤めてくれてますね
午前 6:42

竹内 弓乃
あと15分だけど熊起きない説
午前 6:45

原 由子
思い出以外のテーマはあるの笑
午前 6:45

竹内 弓乃
テーマ2
今だから言える、実は今まで隠してたこと
午前 6:46

充電あと5% 熊不在
午前 6:46
加藤 愛理

熊さん！（笑）
午前 6:47

原 由子
隠し事、、なんだろ、、
ほぼ共有してるな。
午前 6:49

竹内 弓乃
これはすごいぶっちゃけるけど、私が
2011年に長女急に出産して、なんと
な〜く皆とライフステージが離れちゃって、
疎外感？ではないけど、皆も無意識
レベルか意識レベルか分かんないけ
ど私に困ってるんだらうなって時期
午前 6:52

そんな時期に
午前 6:52

原 由子
そんな時期に
午前 6:52

竹内 弓乃
法人化で理事長決める時、原ちゃん
が「じゃあ提出書類とか色々面倒だ
から熊さんにするね」みたいに決まり
午前 6:54

竹内 弓乃
あー...やっぱり皆の中ではそういう位置
付けになっちゃったよなあ
それが力動ってもんかあ
午前 6:55

加藤 愛理
えー！初耳！
午前 6:55

竹内 弓乃
みたいなトラウマ？があり今でもなんか
助成金書類とかに「理事長」書くとき心が
チクンと
午前 6:56

原 由子
ちくんとするの！笑笑！
午前 6:56

竹内 弓乃
自分の行動と周りとの相互作用の結果
の連続だからさー。
それを何が起こってるか、目ん玉かっぼ
じってじーっと見て全部受け止めようとい
う気持ちは変わらない、ていう感じ？
午前 6:57

加藤 愛理
もう概念だから、ミッションを共にしてれば
誰でもいいってことで
午前 6:58

竹内 弓乃
そうそう、もはやミッションを共にして
る概念てことは腹の底から同意してる！！
午前 6:58

原 由子
ゆのさんのその人間関係新しいよね。
心の葛藤を目ん玉かっぼじってじっとみ
る、と言語化して共有することを厭わない
午前 7:00

熊 仁美
やばあ げめん
午前 7:00

アラームかけたのに
今さかのぼって見てる
午前 7:00

加藤 愛理
起きた！！
午前 7:01

熊 仁美
いまこれめう
午前 7:01

竹内 弓乃
いまこれめう
午前 7:01

原 由子
いまこれめう の破壊力！笑
午前 7:02

加藤 愛理
これを受け止め合う関係性ですよね！！
午前 7:02

に基づく実践)で繋がる支援者ネットワークをつくる

■親子向けプログラム「ぺあすく」を全国で年間100家庭に提供

「保護者は子どもの1番の専門家になれる」。設立当初から、当法人が抱えている想いです。「ぺあすく」は、支援者と保護者がチームとなり、子どもの療育に取り組むことで、子どもの発達と親子の相互作用をポジティブに改善していく新しいプログラムです。全国の機関に「ぺあすく」を実装した結果、2年間で約200家庭に提供され、子どもの言語・認知能力や社会性に関わるスコアの向上、保護者の自己評価の改善といった成果が示されました。ADDIS単体では、年間50家庭ほどしか提供できない状況を考えると、全国の機関と連携する重要性は明

らかです。最終年度には「実装公募説明会」を開催し、新たに2機関の実装先が決定しました。引き続き、連携機関の増加を目指し仕組みづくりを行っていきます。



■機関が地域の支援者の学びの拠点に

プロジェクトの公開シンポジウムでは、初年度は200名、2年度目は300名の方が参加してくださいました。また、各地の連携機関と協働で地域研修会を約20回開催。参加者数はのべ300名を超えました。引き続き、全国の連携機関とともに学びの拠点を作っていきます。



■プロジェクトの遺伝子を引き継ぎ、育て、広げる-EBP早期療育研究会の設立

3年間の総仕上げとして、現在EBP早期療育研究会(名称仮)の設立準備を行っています。すでに2回を終えた

間を増やしていくためにも、自立的な組織運営を目指してまいります。

準備委員会では、プロジェクトで連携した10機関の代表の方々に加え、慶應義塾大学山本先生、法政大学島宗先生、お茶の水大学神尾先生、同志社大学武藤先生、ミサワフィナンシャルサービス(株)代表取締役田中様がアドバイザーとして参加して下さいました。プロジェクトの遺伝子を途絶えさせず、学び続ける場として、また信頼と想いを共有する仲



ロボット・VR (Virtual Reality) を人材育成に活用！

公益財団法人三菱財団平成29年度社会福祉事業・研究助成プログラムに、ADDSの「発達障害児に対する早期療育のためのロボットとVirtual Realityを活用した人材育成プログラムの開発事業」が採択され、400万円の助成をいただきました。日本サードパーティー株式会社様、ギフトドエージェンツ株式会社様にご協力をいただき、開発とテスト運用、効果検証が完了しました！



どんな課題を解決したい？

ADDSでは、2011年より「初級ABAセラピスト養成研修」を外部の支援機関の先生方を対象に提供してきました。座学だけでなく現場での実践研修があることが特徴で、近年受講申込みが急増！厚生労働省が児童発達支援事業のガイドライン策定検討会を行うなど、質の担保は各事業者にとって重要課題となることが予想され、研修のニーズはさらに高まる見込みです。しかし、実際に子供たちと保護者の方に協力を仰ぐ実践研修の受入れには限界が！

実践研修を担えるロボットを？！

海外には、ASK-NAOという自閉症療育に活用できるロボットのプログラムがあり、その日本版を作れないか？というお話をいただいていた時、療育ロボットも良いけれど、この実践研修の子ども役をロボットなどのテクノロジーに置き換える試みを思いつきました。早速三菱財団様に助成の申請書を提出し採択いただけることに！



実践研修の子供役を担うロボットとVRが完成！

通常20ケースの実践に入るところ、10ケース分をロボットやVRを活用した研修に置き換えて、効果検証を行いました。その結果、ロボットやVRを用いた研修を受けた群の実践スキルは有意に向上し、特に子供の誤反応や無反応への適切な対応の手順を身につけることに有効であることが示唆されました。今後は、さらに協力者を増やして結果の信頼性を高めることと、従来の研修プログラムの実践研修の部分をロボットやVRが担うことで効率性を高め、より多くの方へ質の高い研修の機会を提供することを目指します。

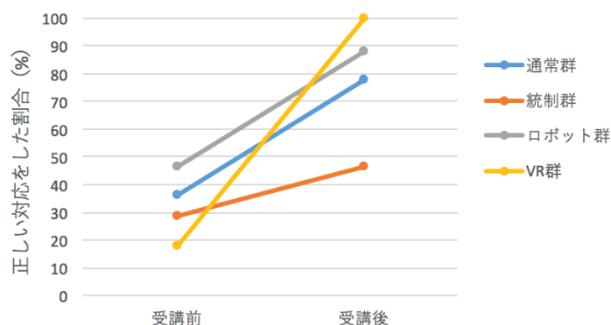


図. 子供の無反応・誤反応への各群の受講者の対応の変化



●活動実績●

(一部抜粋)

■ 2009

2009年8月～2010年3月 NEC社会起業塾第8期生選出,

11月「特報首都圏～根付くか、ソーシャルビジネス～」NHK放送

■ 2010

5月「発達障害児 学生が指導」読売新聞, 5月12日夕刊掲載

8月「自閉症児の可能性を最大限に伸ばす社会を」日経ウーマンonline, 8月9日掲載

12月「～その問題解決に私たちが出来ること～」慶應義塾大学季刊広報誌「塾」

12月「夢は社会起業家」朝日新聞朝刊掲載

内閣府地域社会雇用創造事業ソーシャルベンチャースタートアップマーケット第1期選出

■ 2011

5月「凜たる女性」の肖像(5), PHP出版, 「VOICE」2011年5月号

■ 2012

7月「キーワードはシンプル&ドラマチック。学生セラピストと一緒に、自閉症の子どもの可能性を広げる」greenz.jpインタビュー記事掲載

12月 一般講演「自閉症児のコミュニケーションと情動～NPOにおける実践と研究～」第2回日本情動学会大会

■ 2013

1月 公開講座「発達障害児のためのABA早期療育の現在」ABA療育エージェンシー連絡会&NPO法人つみきの会共同主催

2月 応用行動分析に基づいた自閉症の早期療育支援～NPOにおける実践と研究～日本行動分析学会ニューズレター.69号

4月 トークライブ「社会を動かす起業家と語る、女性の新しいワークスタイル」NPO法人ETIC主催

7月 招待講演「自閉症を取り巻く全ての人を支援者に-保護者と学生へのセラピスト研修」第2回日本小児他職種研究会

8月 準備委員会企画シンポジウム『発達・教育支援におけるエビデンスにもとづいた実践』日本教育心理学会第55回総会

11月 平成25年度 発達障害に関する教職員の専門性向上事業に係る秋期集中トレーニング 徳島県教育委員会主催

■ 2014

7月「認知・感情・適応の心理学」特別招聘スピーカー(同志社大学)

7月「自閉症スペクトラム特集-民間施設 成長に応じ療育」読売新聞医療ルネサンス, 7月9日記事掲載

10月 ワークショップ5「ABA」演者 第55回日本児童青年精神医学会総会

■ 2015

4月 第38回 社会事業家100人インタビュー～自閉症支援に効果ある手法を実証して拡げる～

5月 子供の可能性を伸ばすもの・あそび・ならいごと 特集 祥伝社「nina's」

5月 人事院初年度研修「社会の変革に挑む起業家の取り組みに学ぶ」内閣府

8月「心の健康を守る(2)発達障害の体験会」読売新聞医療ルネサンス 8月20日掲載

8月「発達障害を疑似体験 教育現場へ」NHKおはよう日本 8月28日放送

9月 ケースで学ぶ行動分析学による問題解決 子育て・保護者支援②執筆, 金剛出版

11月「優れた療育法 教育に導入」読売新聞医療ルネサンス, 11月25日記事掲載

12月 特集/発達障害における早期療育の必要性(寄稿), アスペ・エルデの会, アスペハート41号

■ 2016

1月「壁を壊す(1)自閉症を疑似体験」神奈川新聞, 1月21日掲載

4月「自閉症の子供の療育を支援、イノベーション女子」経済誌FORBES JAPAN掲載

4月「子供の発達障害、早期発見が大切 社会的自立へ支援広がる」日本経済新聞, 4月20日掲載

6月「ほめて伸ばす!子供の発達障害」NHK あさイチ放送

11月「うちの子、少し違うかも～発達障害に対する適切療育・支援のための研究開発～」科学技術振興機構主催 サイエンスゴアラ2016

■ 2017

内閣府「社会的インパクト評価イニシアチブ」東京会場互選選出

8月 一般社団法人日本行動分析学会2017年度学会賞(実践賞)受賞

9月「音と光の動物園」東京藝術大学・ベネッセこども基金と共に開催

11月「うちの子、少し違うかも…II～エビデンスに基づく発達障害支援をみんなで考える～」科学技術振興機構主催 サイエンスゴアラ2017

12月「エビデンスに基づく早期療育モデルで描く未来-地域で拓く親の可能性-」開催, RISTEX実装プロジェクト公開シンポジウム

■ 2018年

4月「日本における発達障害児の早期療育の展望～エビデンスに基づく早期療育モデルで描く未来～」発達障害の支援を考える議員連盟総会 研修会講師

4月 世界自閉症啓発デー啓発DAY 東京タワー発達障害体験ブース出展

9月 2018年度チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞入賞

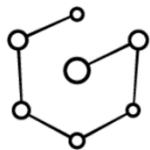
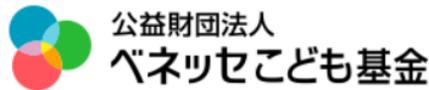
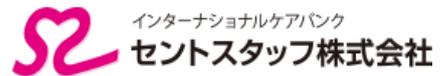
12月「エビデンスに基づく早期療育モデルで描く未来vol2-親子の幸せを科学する地域療育の挑戦-」開催, RISTEX実装プロジェクト公開シンポジウム

2018年度ドコモ市民活動団体助成事業 採択

ADDSを支えてくださった

企業・団体のみなさま

(一部ご紹介・順不同)

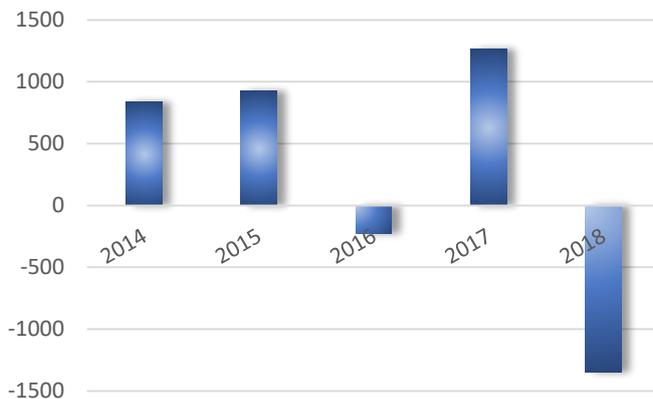


2018年度 財務報告

● データの前提

特別非営利法人ADDSは「すべての子どもの可能性が最大限に上げられる社会へ」をミッションとして活動しています。よって、利益は継続的に支援と研究を続けていく為に必要不可欠なものであると考え、本ページにおいて財政情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。

利益の推移 (単位万円)



2018年は鎌倉事業所ADDS kids1stの開設と新宿事業所の移設に伴う支出により、純利益は減益となりました。売り上げは前年度(2017年)5,930万円から6,927万円と997万円の増収となっており、児童発達支援事業では前年度比9%の減収に留まりました。これからも安定した収益を目指し、継続的な支援と研究に役立ててまいります。

児童発達支援事業 新宿事業所移設に伴い、閉所期間が生じた為、前年度比9%(405万円)の減収となりました。現在は3事業所を開設しています。

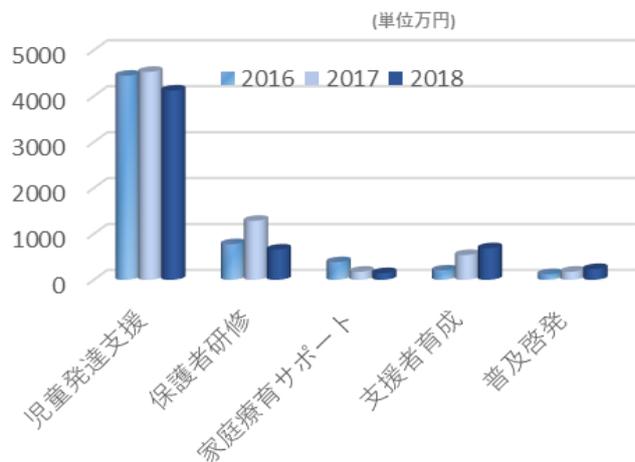
保護者研修事業 担当者異動等による自費療育プログラム減少により前年より48.7%の減収となりました。現在は新たな体制で取り組んでいます。

家庭療育サポート事業 通所支援施設の開設に伴い、家庭派遣件数が減少し、前年度比16.9%の減収となりました。

支援者育成事業 初級セラピスト養成講座等の受講者の増加に伴い147.9万円の増益となりました。

普及啓発事業 啓発イベントの参加や学校・団体向けの研修などにより、59.5万円の増収となりました。

主要事業別収益



2018年度 活動計算書

科目	金額	科目	金額
経営収益		経常外収益	
1 受領寄附金	141,899	1 当期経常増資額	-11,861,134
2 受領助成金等	12,452,271	経常外収益計	-11,861,134
3 事業収益	56,674,741		
経営収益計	69,269,168	経常外費用	
経営費用		1 固定資産除却額	-1,632,944
1 事業費	60,459,026	経常外費用計	-13,494,078
2 管理費	20,671,273		
経営費計	81,130,302	前期繰越正味財産額	48,961,789
		次期繰越正味財産額	35,467,711

(単位:円)

以上、NPO会計基準に従ってご報告いたします。ADDSは今後も財務の健全化と透明性に努めてまいります。

ADDsの活動は、みなさまの寄付でささえられています

子どもたちの可能性を見過ごさない社会へ

皆様からの寄付が、未来の子ども達の成長を支える力になります。

皆様からの暖かいご支援をお待ちしております。

◆1日1歩コース

1日1歩ずつでも、1年で365歩も前に進める！

1歩1歩確実に成長して欲しい。そんな願いを寄付にも込めて。

1日10円×365日＝3,650円コース



◆定額コース

子ども達の成長を、いつも変わらず見守っていきたい。

1回でも毎月でも変わらぬ気持ちが入ったコースです。

3,000円コース・5,000円コース・10,000円コース

◆自由にいつでもコース

今日は素敵なことがあったから、頑張っている子ども達にも分けてあげたい。思い立ったその時に、自由にいつでもいくらでも。

※金額は自由にご指定いただけます。



寄付は振込口座またはクレジット決済がご利用頂けます

●口座振替(寄付申込書のご提出をお願いします)

三菱UFJ銀行/恵比寿支店/(普)0284405 特定非営利活動法人ADDs

●クレジット決済・寄付についての詳細はコチラをご覧ください

<http://www.adds.or.jp/support/donation>



団体概要

正式名称	特定非営利活動法人ADDS
所在地	東京都杉並区荻窪5-16-14カパビル5F(ADDS Kids 1st 荻窪)
施設概要	児童発達支援事業・主たる事務所
共同代表(理事)	熊 仁美 竹内 弓乃
理事	原 由子 加藤 愛理
法人資格取得	平成23年12月16日
正職員	12名
非常勤職員	19名(うちボランティア4名)
運営事業所	■ADDS Kids 1st 鎌倉 〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜三丁目11番48号 由比ガ浜こどもセンター 3F 施設概要:児童発達支援事業、相談支援事業 ■江戸川区発達相談・支援センター ※2020年4月開所予定 〒132-0031 東京都江戸川区平井四丁目1番29号 施設概要:児童発達支援事業、相談支援事業、発達障害相談センター

